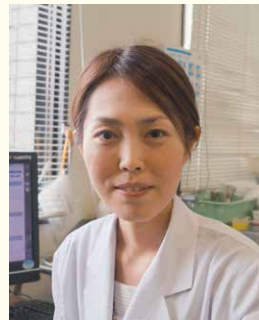


健康通信

白内障と大人の斜視について



眼科医長

土屋 亜沙美

今回は誰もが加齢とともに進行する白内障と、大人の斜視についてのお話です。

白内障とは

白内障とはカメラで言うところのレンズに当たる水晶体が白く濁ってくる変化のことをいいます。

主な症状は

- ・視界がかすむ
 - ・眼鏡をしても視力が低下する
 - ・ものが2重、3重に見える
 - ・光を非常にまぶしく感じたり、暗く感じるでも見にくくなる
- などがあります。

原因の7割以上が加齢によるもので、老化現象の1つとして発症しま

す。40代は40%、50代で65%、60代で75%、70代で85%の方が発症しているといわれています。その他、生まれつきある先天性白内障や眼球打撲などによる外傷性白内障、アトピー性白内障や放射線、薬剤性などが原因のこともあります。

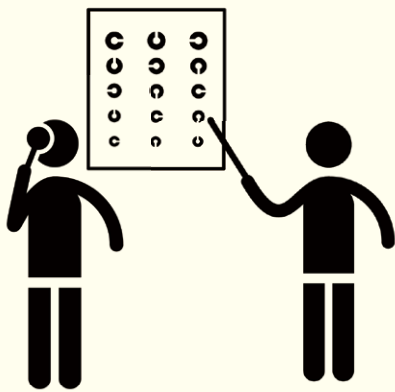
白内障で低下した視力を改善させるには白内障手術しかありません。ただし、生活に支障がなければ、必ずしも手術しなくてもいい場合があります。

日常生活に不自由しない初期段階では、進行を遅らせる点眼をしますが、点眼していても白内障は良くなるわけではありません。進行を遅ら

せるのが目的です。

視力が低下し日常生活が不自由になってきたら、白内障手術の適応です。手術では濁った水晶体を超音波で砕いて除去し、代わりに柔らかいシリコンやアクリルでできた眼内レンズを挿入します。

白内障手術をするかどうかの基準は人それぞれ違います。眼鏡をしての視力が良好でも、まぶしさがひどかったり、車の運転に支障を来すようだと手術の適応となります。視力が低くても、特に症状がなく、車の運転もしないようでしたら手術の時期を遅らせても大丈夫です。ただし、放置してかなり進行してしまう



と通常よりも難しい手術が必要となり、手術時間が伸びたり、入院が必要になったりすることがありますので、眼科への定期的な診察をおすすめします。

大人の斜視とは

両眼の視線が合わなくなる斜視は、人口の3%に見られ、珍しい病気ではありません。子どものうちに治療しないと治らないうちあきらめてしまっている方もいるようですが、大人の斜視でも治療することが可能です。子どもの頃、家族が斜視に気がつかなかつたり、たいしたことないと思って眼科にかからないままになっている患者さんや、頭蓋内疾患(脳梗塞、脳腫瘍)や、全身疾患(糖尿病など)が原因となって斜視を発生し、急に物が2重に見える『複視』が生じる患者さんもいます。

斜視の治療は眼鏡や手術で行えます。手術もほとんどの場合は日帰りで可能です。あきらめずに一度眼科を受診し、相談してみてください。